

学校 教育 目標	自分の考えを表現する子を育てます。(知)			
	思いやりの心をもった子を育てます。(徳)			
学校 概要	創立 53 周年	学校長 佐々木 和美	副校長 石井 陽子	2 学期制
	児童生徒数: 527 人	主な関係校: 希望が丘中学校		
心身ともにたくましい子を育てます。(体)				
様々な人や地域との関わりを大切にできる子を育てます。(公)				
社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)				
～元気いっぱい やさしさいっぱい 笑顔いっぱい 心かがやく 笹小キッズ～				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	希望が丘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	希望が丘中学校 東希望が丘小学校 中尾小学校 笹野台小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に柔軟に向き合い、主体的に学び続ける子ども</li> <li>互いを認め合い、社会とのかかわりを大切にできる子ども</li> <li>目標に向かってチャレンジし、自信をもって行動できる子ども</li> <li>横浜市学力学習状況調査の結果を分析することにより、中学校区の子どもの特性を理解する。</li> <li>児童生徒指導や特別活動、特別支援教育の情報交換を行う。</li> <li>小学校と中学校の授業を相互に見学することにより、子ども像を共有する。</li> </ul>

中期 取組 目標	○子どもたち一人ひとりが自分らしさを発揮して、失敗を恐れず主体的に学び続ける姿を目指します。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目は、子どもが「できる・わかる」楽しさを実感し、自分なりに表現を楽しむ姿勢を育てます。</li> <li>・2年目は、何事にも挑戦して、自分の思いや考えを表現する姿勢を育てます。</li> <li>・3年目は、自分らしさを発揮して、思いや考えを伝え合う姿勢を育てます。</li> </ul>
中期 取組 目標	○地域の「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、地域を愛する心を育てます。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。</li> </ul>

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①子どもが主体的・対話的に学ぶ姿を具体化し、「対話」を通して学びを深めていくための学習の在り方を研究する。②教材研究の質を高める。(対話を通して思考を交流し広げていけるように、手立てを明らかにし用意する)③学力向上に資する学校共通の学び方を検討する。
担当	A部会	
徳	道徳教育	①本校の合言葉を意識し、学校教育全体を通じた「豊かな心」の育成を目指す。②ペア学年活動や学校行事を通して豊かな感性や情操を育むとともに、自他を尊重する態度を養う。③対話を通して、楽しみながらコミュニケーション能力を高める活動に取り組み、認め合い、励まし合う心を育む。④道徳科の授業では、対話を通して多面的、多角的な考え方に気付くとともに自己を見つめることができるようにする。
担当	B部会	
体	健康教育	①ロング昼休みや長縄集会、任意参加の逃走中等を行い、楽しみながら体力向上に向かう取組を行う。 ②体育の授業では、運動の特性や運動の楽しさを味わい「できた」を実感できるように、教職員向けの実技研修を実施したり、学習資料を共有したり、学習用具の工夫をしたりする。 ③より良い食生活を実践できるように、食育月間や食育の日等に食に関する指導を重点的に行う。
担当	C部会	
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①年間を通して異年齢交流ができるよう特活部を中心に活動例を示す。教師が見通しをもって計画し、経験を増やすことで子どもの自発的な活動につなげられるようにする。 ②「自分づくりパスポート」を中学校ブロックで方向性を定め、学校全体で共通理解を図って活用できるようにする。
担当	特活部	
いじめへの対応		①月1回、児童理解のための時間を設定し、全職員で子どもたちを見守る体制を整える。②児童が安心して学校生活を送ることができるよう、児童アンケート3回とYPアセスメント2回を実施し、児童の思いを捉えられるようにする。③いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見と認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで児童の心のケアと再発防止に努める。
担当	B部会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①管理職・主幹教諭・学年主任のリーダーシップのもと、今日的課題に関する対応力やチーム力を高め、教職員同士がお互いに指導助言を繰り返しながら教師力を高めていく。②教科・領域の指導方法や安全・生活指導、児童理解等、職員の希望に沿って幅広い研修を行う。③ICTを活用して情報の共有化を図るとともに、行事や会議の精選・効率化のアイデアを職員から吸い上げることで、全職員の組織的な働き方改革につなげる。
担当	B部会・教務	
特別支援教育		①特別支援全体計画に基づき、特別支援コーディネーターを中心に支援が必要な児童に対し、取り出し指導を行い、学習や生活上の課題を克服できるようにする。②SCやSSWとも連携し、必要に応じて支援検討会を行う。特に支援の必要な児童について、関係する職員で共通理解を図り、チームで必要な支援を行えるようにする。③特別支援教育に関する教職員の知識を深める取り組みを行い、個に応じた指導や支援に生かす。
担当	B部会	
担当		
担当		
担当		